

<企画2>


国際ジョイントセミナー

世界8大学合同国際フォーラム発表

-
- 発表① “Theme: What can we do when a big natural disaster happens?”
テレビ会議 (オーストラリア・モナシュ大学)
Maiko Minabe、Ayae Ishikawa(Ochanomizu)
Kento Ihara、Mari Kumagai(Tohoku)
Daichi Furuta、Kouji Imai(Nagoya)
Jack Leong / Weidi Wang / Alex Yang
- 発表② 『災害』 (チェコ・カレル大学)
ヴァルコヴァー・ヘンリエタ、シピロホヴァー・カテリナ
- 発表③ 『震災復興と国際連携』 (タイ・チェンマイ大学)
ヤイサーン・アピシット、ヤンフアン・プラッパソーン
- 発表④ 『中国の大学生が今考えていること』 (中国・大連理工大学)
ソウ・ギョウハ、リ・キンバイ
- 発表⑤ 『天災と人災』 (韓国・釜山外国語大学)
パク・ファジョン、キム・ジョンミン
- 発表⑥ 『世界の災害、その時ドイツは何ができますか？』 (ドイツ・ボン大学)
ベンダー・アナスタシア、クリガー・イリナ
- 発表⑦ 『世界の災害、その時あなたは何ができますか？』 (ポーランド・ワルシャワ大学)
シュミギェルスカ マグダレーナ・カタジナ
マリノフスカ カロリナ・アンナ
- 発表⑧ 『災害の中でも希望の兆しを 長期的な国際交流』 (アメリカ・ヴァッサー大学)
イチザワ・マリア、チェン・イン
- 発表⑨ “Problems for Foreigners in Japan”
(日本・お茶の水女子大学) Tamami Katayama
“Problems from a linguistic point of view”
(日本・お茶の水女子大学) Johana Dvorakova
-

世界8大学合同国際学生フォーラム

オーストラリア モナシュ大学



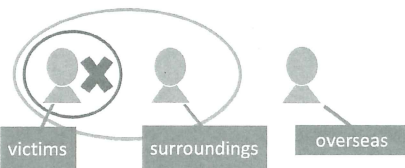
The TV meeting on 12 Mar

Maiko Minabe / Ayae Ishikawa
Kento Ihara / Mari Kumagae
Daichi Furuta / Koji Imai
Shoko Kuzumoto / Kana Sugawara
Jack Leong / Weidi Wang / Alex Yang

Introduction

- Our topic : "what should we do when a big disaster happens? "
- We discussed this topic with 11 students including 3 students of Monash university.
- We conveyed 3 situations and 3 terms.

• situation



• term



disasters

Earthquake

- We cannot predict



Bush fire

- We can predict
- It is peculiar to Australia



Before Disaster

- Necessary for evacuation drill
→ not to cause panic and stress
- Education
→ adequate knowledge of common disaster is important



Bushfire



During bushfire: What to do as a victim

- Be careful of dangerous objects like loose debris, sharp objects, hot coals, weakened walls and gas leaks.
- Also be careful when returning to damaged places. You should check with local emergency services (ex. CFA – Country Fire Authority) to determine if it is okay to return home.

During bushfire: What to do as a victim

- Electrical supply and gas supply will be disturbed from the fire. Furthermore, bushfires will result in polluted water supplies.

After a bushfire

Victims

- check with local emergency services
- Safe water & food

Domestic bystanders

- provide temporary accommodation
- provide therapy

After a bushfire

Bystanders overseas

- provide victims with new clothes, food, water and places
- Clean up
- utilize social media



Earthquake

During earthquakes happening

- Get under the desk → protect your head!
- Evacuate from the building to outside
Don't push, Don't run, Don't talk, Don't return
- If you are near the sea, escape to the high places

After Disaster :What to do as a victim

1. Get and share accurate information with making community.
 - About risk for secondary disaster(Tsunami, fire and so on).
 - About who need rescue and what supply victims need.
(Ex. foods, water, blanket, electricity supply, heater, house...)We have to inform these thing proper institution quickly.

After Disaster :What to do as a victim

2. Share their experience and prepare next disaster.

The experience they had is very hard and painful.

But they should tell it their children and should not forget the memory, because another disaster may happen in future.

After the disaster (domestic&overseas)

- Get the true information
For example...
The accident of nuclear power plant in Fukushima
→Rumor caused damage to the industry of the area.
- Listen to the victims
→People can know what is really happened.

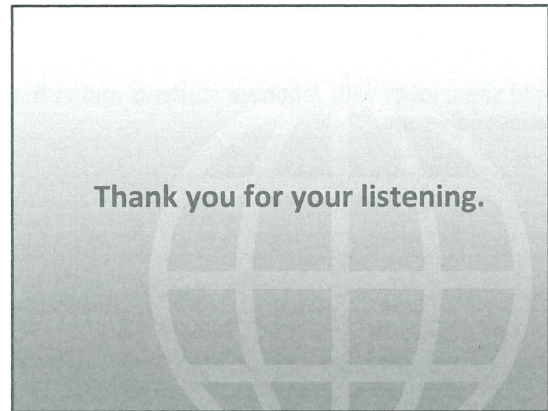
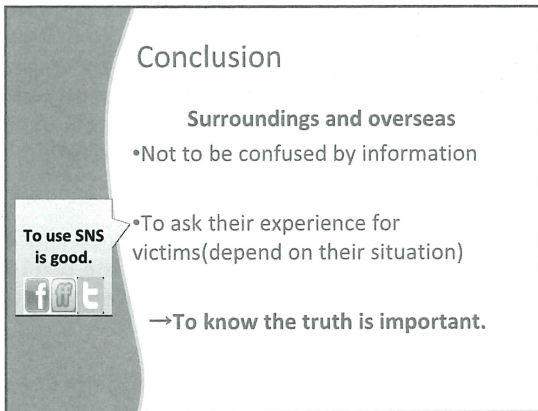
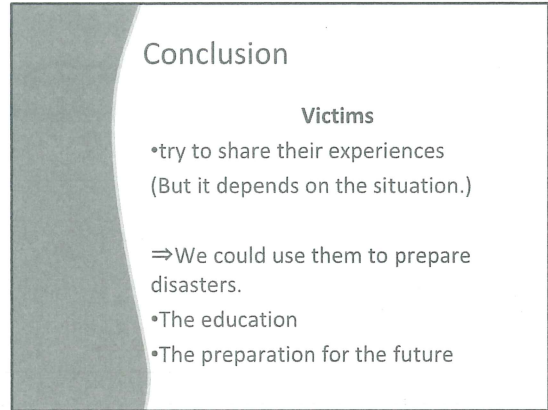
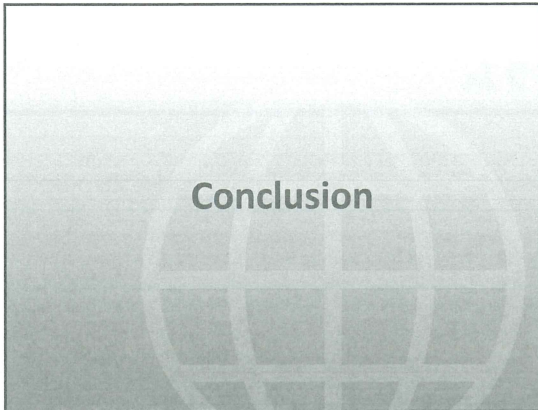


After the disaster (domestic&overseas)

Especially for people in overseas,

To know the truth is important

It tells you what you should do for the victims.



世界8大学合同国際学生フォーラム

チェコ カレル大学

ヴァルコヴァー・ヘンリエタ
Aslková Henrieta
カレル大学

It was a good opportunity to practice my Japanese skills in an academic environment & discuss about a variety of topics concerning natural disasters.

I could share ideas with Japanese students and visit a Japanese university.

シピロホヴァー・カテリナ
Spirochová Kateina
カレル大学

By coming to Japan and participating in International Students' Forum I could learn about natural disasters occurring in other countries by listening to first-hand experience of other participants. Also, by mutually teaching one another we could learn about prevention and counter-measures of natural disasters in each country, and thus be able to use this knowledge in the future.

I believe that the program was well-planned and thus both entertaining and challenging. The program provided both learning opportunities, but also free time for whichever activity I decided.

Thanks to my visit to Japan, I could improve my knowledge about contemporary Japan and make a comparison to the information I found in my specialistic literature. By being able to get this data I can write most up-to-date master's thesis.

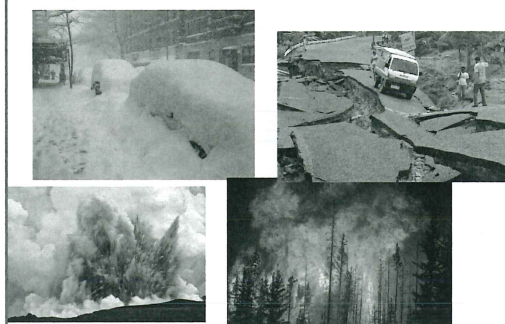




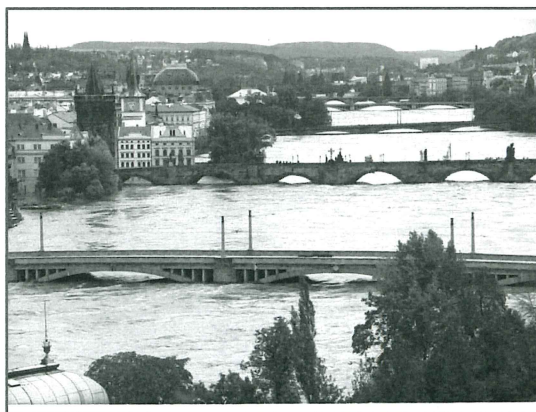
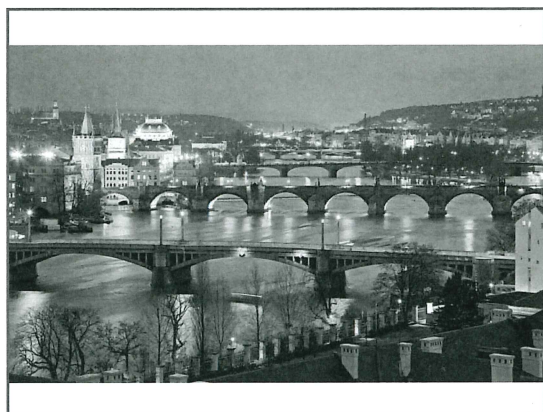
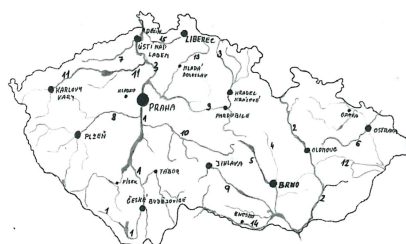
災害

Henrieta Válková
Kateřina Špirochová

災害



チェコ



2002年の洪水

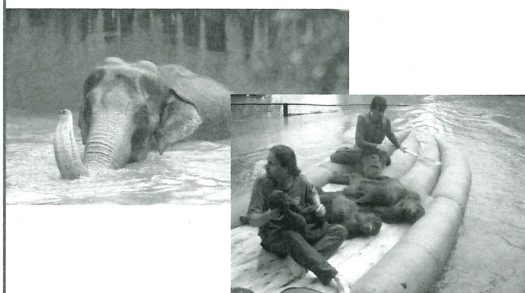


- 2002年の洪水
- 理由は雨
- 動物園
- 私の経験
- 洪水のあとで

雨



動物園



私の経験



洪水の後で



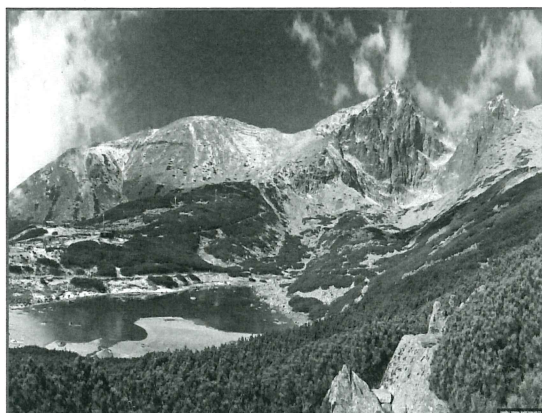
チェコからの支援



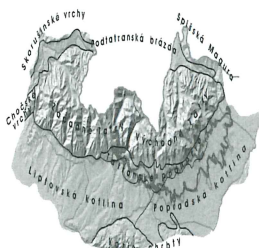
スロバキア



Vysoké Tatry ハイタトラ



2004年の暴風



- ビューフォート風力階級
- 颶風(ぐふう)という風の激しさのタイプ(時速118キロ以上)
- hurricane
- 12000ヘクタール
- 300万立方メートルの折れた木





- 人命の救助
- 障害物の排除
- 電線や水道の回復

- 軍人
- 消防士
- 森林監督官
- ボランティア



暴風の影響:

- 小気候の変化
- タトラの植物界の変化
- 土地や河川の変化
- 動物の移動
- 風力が増した

ブラチスラバ



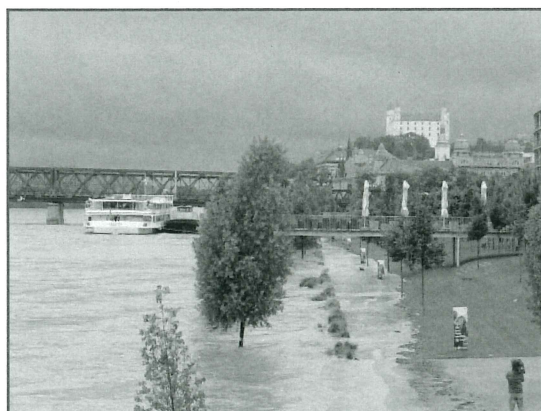
2002年に起こった洪水





堤防の改善

2013年に起こった洪水



私たち自身はどういうふうに支援できますか。

- 寄付金
- 物の寄付
 - 運送や貯蔵のコスト
 - もっと必要な物がある
- 経済の支援

unicef

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ボランティア活動

- EU Aid Volunteers
 - 2014-2020年
 - 2億390万ユーロ

EU AID Volunteers

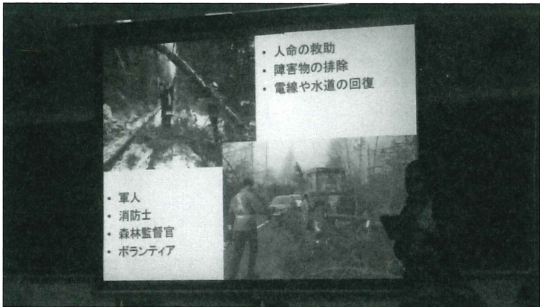


WE CARE, WE ACT

- 注意事項:
 - 私自身はこういう仕事が精神的に、身体的にできるのかと自問してみること
 - 予防接種、現地の状況
 - 救助するプロの命令にちゃんと従う



ご清聴ありがとうございました



世界8大学合同国際学生フォーラム

タイ チェンマイ大学

ヤイサーン・アピシット

Yaisan Apisit
チェンマイ大学

日本語で震災が起きたときの国々の対策と復興がわかるようになった。特に、日本の出来事からみると、自分の国についての対策を応用する方法のきっかけだと思う。

日本に着いたときから、ずっと日本語でコミュニケーションをとるので、自分の日本語知識を伸ばして様々な人々とのコミュニケーションができた。それに、日本事情という在国大学における習っている科目の内容で現在の日本社会がよくわかるようになった。それで、日本人との仲が良くなった。

様々な国の学生たちの大学として震災が起きたときでできることに限らずセミナーと発表である。それに、農林水産省に行き、日本政府の国民に対する援助を学んだ。例えば、被害の悪影響を受けた東北地方の農産物の輸出拡大である。

今から1年後卒業する予定である。卒業後、日系企業で通訳として働きたいと思う。あるいは日本の大学において人類に関して学びたいと思う。できれば、タイと日本の第三性(トランスジェンダー)に関して研究したいと思う。

この度、フォーラムに参加するだけではなく、日本人と留学生で文化を交換した。例えば、セミナーが終わり日本人の友達と一緒にタイ料理を作った。その上、タイのこと(観光地、料理、文化など)を教えた。それで、日本の学生と他の国から来た留学生と仲良くなり、新しく面白い話を知った。それは文化交流の一部だと思う。

ヤンフアン・プラッパソーン

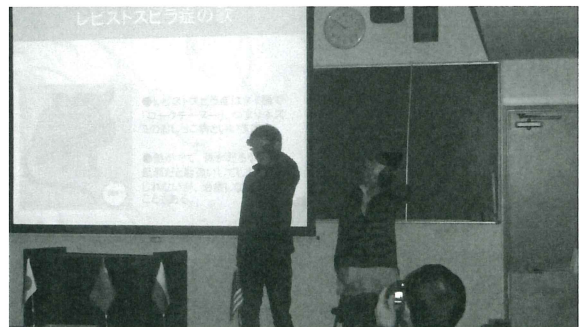
Yangfueang Prapassorn
チェンマイ大学

いろんな国の発表が聞けて、以前知らなかったことも知ることになって、とてもいい経験でした。自分だけが災害でくろうをしただけじゃなくて、ほかの国も様々な災害が起き、その時はどんな対応があったかをきかせてもらって、いい勉強になりました。これから自分の国で災害があった時、今回勉強したことを生かしたいと思っています。

他の国の人と接し方。日本の寮の過ごし方。いままでしなかったことを、1人でできるようになった。例えば、電車の乗り方など。人の前で発表すること。

PROGRAMの順番がよかったです。着いた日いろいろ案内してもらって、Relaxできた。発表の内容もいろいろあって、様々な意見を聞けて、面白かったです。

もっと勉強するように、日本に一年間留学したいと思っています。日本人は何かをする時まじめで、感動しました。できれば、日系会社に入りたいと思うようになりました。



第3回世界8大学合同国際学生フォーラム
震災復興と国際連携

アビシット・ヤイサーン
ブラパッソーン・ヤンフアン

チェンマイ大学人文学部東洋言語日本語学科



津波



Before

After

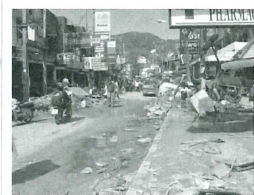
津波

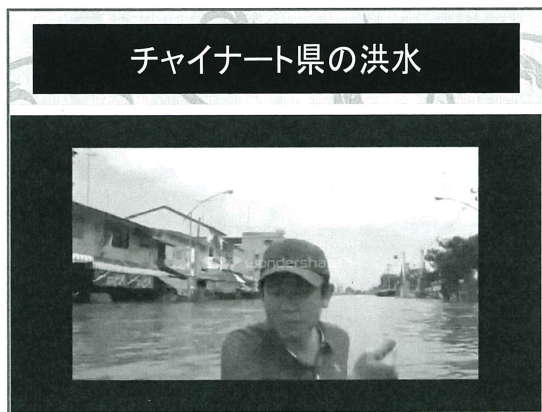
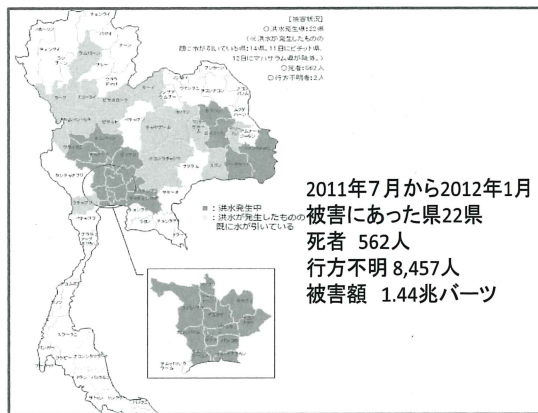
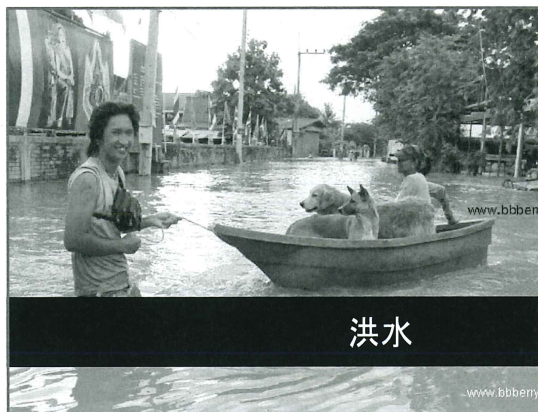


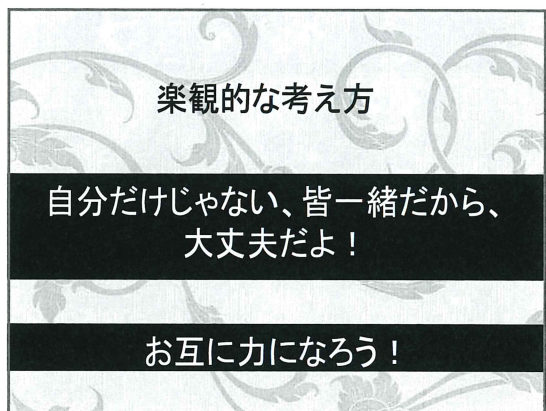
津波

スマトラ島地震
2004年12月26日
タイ・プーケット島

- 死者 5,305人
- 怪我者 8,457人
- 被害を受けた国の中で4番目多い





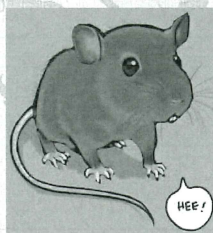


情報を人に伝えること



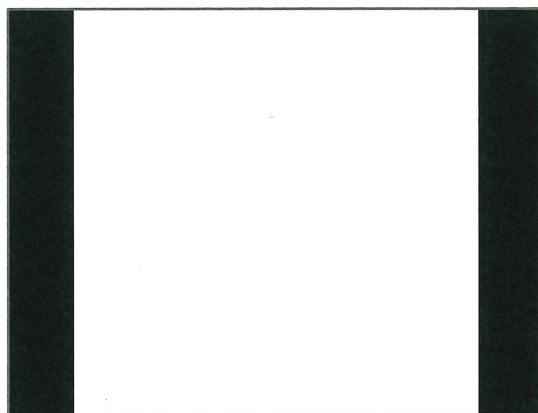
The aim is to get these whales to the Gulf of Thailand as fast as possi

レピストスピラ症の歌



●レピストスピラ症はタイ語で「ロックチーヌー」、つまりネズミのおしっこ病といいます。

●熱がでて、体がだるくなる。風邪だと勘違いしてしまうかもしれないが、治療しないと死ぬこともある。



世界8大学合同国際学生フォーラム

中国 大連理工大学

ソウ・ギョウハ

Cao Xiaobo

大連理工大学

男性は二人だけで、外国人ばかりで、普段あんまり外国人と会う機会がない私に対する、本当に辛いです。みんなと話をかけることを勉強になりました。外国についてのイメージが変わりました。また、みんなと各国のことを話し合っ、いろいろ知ることができます。

電車についてのことは、印象がすごいです。便利で、外国人も二三回ぐらい乗ると、乗れるようになります。また電車の地図もちゃんと印刷して、見ると分かります。電車の駅も、一駅で、いくつの電車が通行しても、指示があるから、迷うはありません。水も、コンビニも多くて、便利です。

いろいろ勉強しました。来た前に、日本は震災について、どう復興して来ますか詳しく知っていませんでした。11日の授業を受けて、大部分分かりました。みんないろいろな努力をしたのは分かりました。また、原爆の影響は小さくなったのを知りました。また、13日みんなのプレゼンテーションを聞いて、世界の大学生が考えていることを知りました。また、いろいろ国のことを知ることができます。

私はまだ、えい、来る前にまだ進路についてのこと考えていなかったでしたから。進路に影響あるとはいいいませんが。でも、外国の面白さに興味があつて、多分外国に仕事します。

大学で、日本語を勉強し始めました、この前、英語をずっと勉強しました。日本語を勉強したから、英語にあんまり興味を持っていません。今回の内容は、半分ぐらい英語で、辛かったで、今後は英語も、他の言語もかもしれないですけど、勉強するつもりです。

リ・キンバイ

Li Jin Mei

大連理工大学

今回のフォーラムを通して、以前全然考えなかった問題は今注意をし始めました。例えば、震災復興についての問題です。そして、他の国の学生が作ったプレゼンから、本当にいい勉強になりました。

今回は私が始めて日本に来ました。すごく充実に過ごしました。とても楽しかったです。そして、日本の建物が本当に好きです。日本人の優しいや、日本の静かななど、本当にちゃんと感じました。そして、みんなは全部ちゃんとルールを守ることを見て、本当にびっくりしました。日本での経験が本当に大好きでした。

今回、東日本大地震のイベント活動に参加することができました。本当にうれしかったです。そして、様々な講演とプレゼンを受け入れて、もっと福島などの被災地のことを分かって、自分自身で当地の食べ物を食べることを通して、応援子とができて、本当に満足に感じました。

今回のフォーラムを通して、自分がまだいろんなことを学ぶべきということを認識して、大学を卒業したら、日本に来て、大学院に入る考えもあります。

今回のフォーラムに参加することができて、本当にありがたい気持ちがあります。とても楽しく過ごしました。また日本に来たいなあという気持ちも生じます。そして、他の人と交流する時、自分の不足も発見した、本当にうれしいです。

震災復興と国際連携

中国の大学生が今考えていること

中国大連理工大学
日本語学科三年
曹晓波・李金梅

2014-3-13

1

発表の流れ

- 震災復興に対する中国の大学生の意識
- 震災復興において中国の大学生が実際に行ったこと
- 私たちの提言

2014-3-13

2

世界では災害が頻繁に起きている

2004年スマトラ島沖地震 2005年ハリケーン・カトリナ



死亡の人数: 29.2万人

http://web.ahsa.gov.cn/news/20070604/132907_1994.html



死亡の人数: 1000人

<http://www.sina.com.cn>

2014-3-13

3

2008年中国四川大地震 2011年東日本大地震



死亡の人数: 69227人

career.51youai.com



死亡の人数: 15884人

<http://www.300doc.com/content/11/0310/14/5954340/101648721.shtml>

2014-3-13

4



災害発生直後の救助！！
そのあとの震災復興！！

2014-3-13 <http://www.kdby.cn/thread-485350-1-1.html>

5

震災復興に対する中国の大学生の意識

- 調査対象: 大連理工大学に在籍している学部生100名(男性64名、女性36名)
- 調査時期: 2014年1月
- 調査方法: アンケート調査

2014-3-13

6

結果:

1 現在世界において、災害が頻繁に起きていると思いますか。

はい: 94% いいえ: 6%

2、災害後の復興には国際連携が必要であると思いますか。

はい: 96% いいえ: 4%

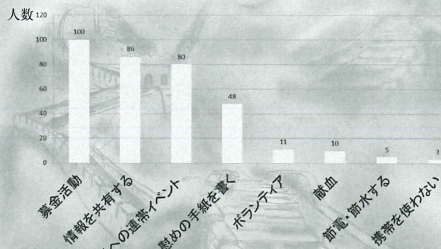
3、災害後の復興について関心を持っていますか。

はい: 73% いいえ: 27%

2014-3-13

7

4、震災後、被災地のためにしたこと



2014-3-13

8

中国における大学生の人数

2500万人以上

毎年増加の傾向



中华人民共和国国家统计局 中国統計年鑑(2012年版)



大学生の特徴:

人数が多い
若い
社会意識が高い
表現能力と交流能力が高い
知的レベルが高い
団体意識がある

2014-3-13

9

震災復興において大学生が実際にやったこと

募金活動



祈る



献血する



2014-3-13

10

<http://news.sohu.com/20080520/n256968520.shtml>

教育現場へのサポート

教育応援

清華大学
山東大学
大連理工大学
...



災害に対する自衛の知識
基本的な救急措置の啓蒙
音楽、絵画、ゲームによるの癒し

2014-3-13

11

専門医療チームによるサポート

医療応援

天津医科大学
北京大学
第三軍医科大学
...



けがの治療
無料検診活動
基本的な医療知識の啓蒙

2014-3-13

12

<http://news.sohu.com/20080520/n256968520.shtml>

心の健康のサポート

心理カウンセリング

安徽師範大学
四川師範大学
成都信息工程学院
.....

外傷後ストレス障害
いわゆるPTSDを除く
将来への不安についての相談



<http://news.sohu.com/20080520/n256968520.shtml>

2014-3-13

13

行政手続きサポート

行政手続きサポート団

四川大学
復旦大学
中山大学
.....

震災補助の申請の相談
保険、相続、扶養などの相談



<http://news.sohu.com/20080520/n256968520.shtml>

2014-3-13

14

地域行政へのサポート

大学生村官(村長)

村民の民意代表として、
復興計画を立案・実行する。
例: 地方の特色を利用して、
観光、飲食、農業を興す。



<http://ent.cctv.com/special/zhiyuanzhe/20080525/101284.shtml>

2014-3-13

15

NGOへの参加

NGOに就職する

救援と慈善事業に参加する
国境を超えた救援活動
NGO内部の改善



<http://www.kfey.cn/thread-85330-1-1.html>

2014-3-13

16

私たちの提言

国内の場合

- 自分の専門知識を生かす

1 資料分析

今までの世界の大地震の救助と復興などに関する資料を分析し、公開する。

2 実地分析

地理環境、経済環境、生活環境などから災害について分析し、被災地の実情にあったサポートを考察する。

2014-3-13

17

- 流言飛語(デマ)に惑わされない。
- 正能量(正しいことを正々堂々で行う勇氣)を発揮する。
- 災害現場の現地中国人居民と海外からのレスキュー隊員に対する通訳サポート。
- 歴史的な重要文化財と野生動物を守る



<http://www.kfey.cn/thread-85330-1-1.html>

2014-3-13

18

世界各地で起きる災害に 私たちはどう手を伸ばすか

- まず関心を持ち、持ち続け、関心の輪を周囲に広げる。
- 自分たちにできることを考え、話し合う。話し合いの中から生まれたアイデア(募金、祈念活動など)をどう実現させるか立案し、計画を具体的に実施する。

例: LINEなどの国際的ポータルサイトを利用して連帯メッセージを送、孤立した被災者の救助依頼を転送する。
中国から被災地への応援観光を積極的に参加する。
芸能娯楽活動で被災地への連帯メッセージを動画送信する。

2014-3-13

19

海外から中国に留学している 外国人留学生との連帯活動

- 連帯メッセージを動画送信する。
- 各地の留学生座談会の動画メッセージをアップロードする。

例: 母国での被災体験を語り合い、
危機を乗り越えた体験を共有し合う。

2014-3-13

20

いつやるの？
今でしょ！

2014-3-13

21

主な参考資料

1. <http://news.163.com/12/0903/14/8AG37P7V00014JB6.html>
2. <http://news.sina.com.cn/c/2008-06-30/012114090538s.shtml>
3. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E5%B7%9D%E5%A4%A7%E5%9C%B0%E9%9C%87>
4. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%83%BD%E6%B1%9F%E5%A0%B0>
5. <http://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%A7%E9%BE%99%E8%87%AA%E7%84%B6%E4%BF%9D%E6%8A%A4%E5%8C%BA>
6. <http://baike.baidu.com/subview/1588762/8012423.htm?fr=aladdin>
7. 李臣、广州社会主义学院学报 2008年第4期《浅析非政府组织带抗震救灾中的作用及其拓展——以汶川大地震为例》
8. 张海波、董星 社会科学 2012年第3期《巨灾救治的理论检视与政策适应——以“南方雪灾”和“汶川地震”为例》

2014-3-13

22

ご清聴
どうもありがとうございました

2014-3-13

23

世界8大学合同国際学生フォーラム

韓国
釜山外国語大学

パク・ファジョン

Bak Hw A Jeong

釜山外国語大学

ちゃんと人の前で自分の意見を照れずに話せるようになったのが何よりの成果です。私はこれまでプレゼンや自分を意見を述べることを体が嫌がっていて避けてきました。しかし今回の発表の準備をしながらちゃんと準備さえできればできることなんだと思うようになり、またディスカッションを楽しむ他の学生たちをみてその姿勢を見習おうと思ったの一番の勉強になったところです。

日本で経験の中で一番印象に残っているのは10日のパネル発表とディスカッションです。お茶の水大学の英語での発表は普段できない経験でとても新鮮でした。今回のフォーラムで知った複言語と複文化についての発表が印象に残っていて自分の国の状況などと比べながら聞くことができました。外国の学生たちの活発なディスカッションを聞いて韓国の状況とはだいぶ違うことが分かりました。韓国ではディスカッションをやる機会があまりなく、機会ができたとしてもみんなが静かに周りを伺うだけです。韓国でのこんな雰囲気のためディスカッションに活発に行われるように自分から頑張ってみようと思いました。

プログラムは思ったより大変でしたが、とても楽しく、すごい勉強になりました。近隣国で起きたことですが、東日本大震災の実感が余りたかった私にはこのプログラムで震災現場の写真や追悼式などをみてこんなことが本当に起きていたんだ。と改めて思い知るようになりました。そして地震体験や煙体験など普段あまり経験することがなかったことが経験できてよかったです。

韓国に帰ったらまず英語の勉強を始めてみようと思います。私はこれまで日本語だけでも十分だと思っていましたが、今回のフォーラムでみんなと語学力をみて強い刺激を受けました。英語だけでなく他の言語を喋れるようになりたいと思いました。私はこれまで勉強をしなければならぬからやっただけだったんですが、今回のフォーラムで言語はとても楽しくてやりがいがある勉強だと思うようになりました。

一つ気になったのは英語を使うプログラムが多かったことです。英語をあまり使わない環境から来た私からしては何を話しているのか、全然プログラムに参加できなかった気がしてちょっと残念でした。そんなプログラムなど事前に教えてもらえたらもうちょっと勉強して来たはずなのに、と思います。

キム・ジョンミン

Kim Jungmin

釜山外国語大学

話題は「世界的な災害が起きたときに私たち大学生ができること」でしたが、実はプレゼンの準備をしはじめたときからこの話題がむずかしかったです。しかし、準備をしながら少しずつ災害に対する自分の考えを持つことができたし、こういう考えをしてみることができただけでもいい経験になったと思います。このフォーラムに参加する前の個人的な目標は日本語を専攻にしている日本人との会話はしてみたけど、第3国の外国人との会話を日本語にしたことはなかったので日本語で韓国や日本の人とのコミュニケーションができて楽しかったです。そして私が思ってもいなかった考え方も聞けて、お互いの違う発想でお互いのプレゼンを見て意見交換できてよかったです。

学術だけでなく寮でお互いの文化を共有し夜遅くまで集まっていろいろな話をするので楽しかったです。いい刺激になりました。パディーの友達が来日する前からいろいろ手伝ってくれたり、気を使ってくれたりして困ったことも全然ありませんでした。滞在中でも気が合う友達がいっぱいできて嬉しかったです。十日間大学で提供してくれた寮で泊まりましたが、韓国と結構違うシステムと雰囲気が面白かったです。

思ったより充実でした。国際フォーラムって書いてあったから学術ばかりかと思っていたら主題に関する様々な体験も(農林水産省に行って災害にあった地域の状況について聞いてその地域の農産物を直接食べてみるとか防災省に行って災害の体験をした。)できた。ただ座って行われるプログラムじゃなくて生き生きするプログラムだったのでとてもよかったです。

今年はもう4年生になったので1学期通ったら休学をしようと思っていたんですが、やはり休学中に英語の勉強を頑張って能力試験に受けなければならないと思いました。そして日本語はもう話せるから聞き取れて言いたいことを言うくらいでなくもっと勉強し続けてもっと自然な日本語、日本語らしい表現が使えるよう頑張って日本語を使える仕事がしたいと思いました。

フォーラムは日本で開いたけど国際フォーラムだったからであるからか英語を主にしていたプログラムが多かったです。分かりづらくてすごくあわててむかつきましたが、英語の必要性に気づきました。今回はアメリカの友達に訳してもらえてよかったけど、次は英語もけっこう使いますよというお知らせだけはしてほしいと思いました。

天災と人災

**B
U
F
S**

Busan University
of Foreign Studies

コミュニケーション日本語学科

パクファジョン+キムジョンミン

目 次

1. 災害
2. 韓国の現状
3. 私たちにできる事
4. 結論

災 害

日本の辞書、広辞苑では異常な自然現象や人為的原因によって、
人間の社会生活や人命に受ける被害

1. 天災

爆風、地震、落雷、洪水など自然界の変化によって起る災害



3/14

災 害

1-1 韓国の天災

1) 台風

平成15年台風第14号「メミ」

原 因 — 2003年9月4日グアム付近で発生した熱帯低気圧

被害状況 — 死亡・行方不明 132人、被災者 約6万1000人



3/15

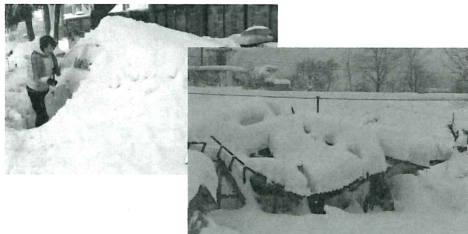
災 害

2) 冬の大雪

2004年韓国中部爆雪

原因—大雪

被害状況—6734億ウォンの財産被害・交通の麻痺



3/16

災 害

1-2 世界的天災(最新の大きな事故)

1) フィリピンの台風 (平成25年台風第30号、Haiyan)

発 生 — 2013年11月8日

被害状況 — 死傷者1万2000人、被災者420万人以上

400万棟の家屋崩壊 物価急騰と電力遮断



3/17

災 害

2) アメリカの奇襲的異常寒波

発 生 — 2014年1月初旬
 原 因 — ボラボテクスで気温低下
 被害状況 — 寒波に素肌が5分だけあっても凍傷
 死亡者 最低21人 50億ドルの経済的損失



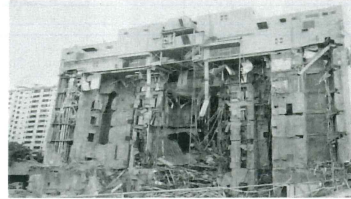
07/10

災 害

2. 人災

人間の怠慢、過失、不注意などが原因となって起る災害

また、天災の被害が防災対策の不備や救助の遅延などで増幅された場合にもいう



韓国の上坪大橋崩壊事件当時

07/10

災 害

2-1 韓国の人災

1) 放火事件

発 生 — 2003年2月18日 大邱地下鉄火災惨事
 原 因 — 放火
 被害状況 — 死亡者192人 行方不明者21人 負傷者151人



07/10

災 害

2-1 韓国の人災

2) 慶州マウナリゾート崩壊事件

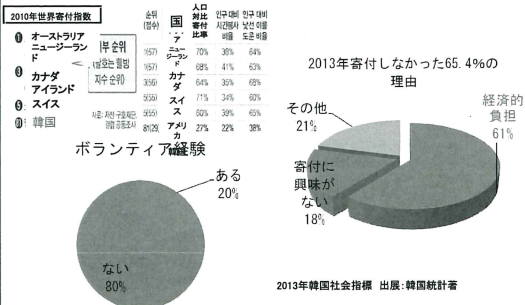
発 生 — 2014年2月17日発生
 原 因 — 湿気を含んだ大雪、手抜き工事
 被害状況 — 死亡者10人、負傷者124人
 支援状況 — 死傷者に対する保障、生存者に対する心理治療など



08/10

韓国の現状

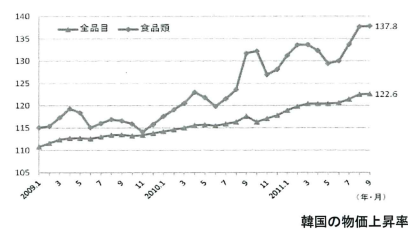
寄付やボランティアに関する資料



07/10

韓国の現状

長く続く不況



2011年韓国の最低賃金=4150ウォン(410円)

長く続く不況



物価は上がる傾向にありつつ給料はそのままの状態
国民は自分が生きるにも苦しいのに誰を助けるんだと思っている

→意識改善必要

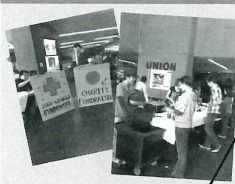
私たちにできる事

<p>チャリティー行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 世界各国で行われている売り上げ形式募金 ◆ 才能寄付形式募金 	<p>長期的ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ もっといいアクセスのため ◆ 距離的制約を越えるため
---	---

私たちにできる事

チャリティー

行事



サンドイッチやコーヒーなどを
安い価格で売り、その売り上げを
被災者に寄付

サークル活動を通じた
才能寄付式募金

岡山県立大学
演劇サークルゲキあい定期公演案内(仮想)

時間と場所:2014年3月15日17時、大学講堂
内容:タキオのオリジナル劇本「ハッピーワフ(その学校)」

チケットは2月10日から販売所でチケット代は5000ウォンです。
この公演より発生した収益は今日釜山外国語大学で
起きたリゾート事故の犠牲者のための通病調査のために使われます。
皆さんの応援をお待ちしております。

— 45 —

9413

私たちにできる事

長期的ネットワークの構築

大学生は近隣国に興味を持ち、
自国の情報を共有するのがとても重要。

しか

「成績に関するある程度の支援が必要」

最近韓国の大学生は成績や就職など自分のことでいっぱいになって他人の話に興味を持つことが難しい



結論

ありきたりなことの大切さ。

—それが積み重なった時のパワーはとても強い。

災害時の私たちにできることを交換し、またそれを自分なりのやり方で考え直し、自分のものにする、そういう意味でこのフォーラムはとてもありがたい機会。

小さくて些細なことでもいいからやれるものからやってみることが大事。

今やっているものをみんなで話し合い、意見を交わしたい。

出展

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E6%88%9015%E5%B9%B4%E5%8F%B0%E9%A2%A8%E7%AC%AC14%E5%8F%B7>

http://ko.wikipedia.org/wiki/2004%EB%85%84_%ED%95%9C%EA%B5%AD_%EC%A4%91%EB%B6%80_%ED%8F%AD%EC%84%A4

http://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_000345.html

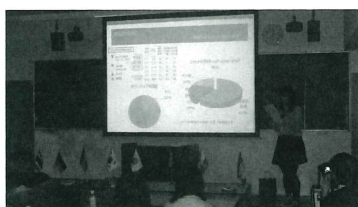
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E9%82%B1%E5%9C%B0%E4%B8%8B%E9%89%84%E6%94%BE%E7%81%AB%E4%BA%8B%E4%BB%B6>

<http://blog.naver.com/kacho62/50181475472>

3P。連合ニュース記事写真
4～10P。NAVERイメージ検索

2010年寄付表-朝鮮日報記事引用イギリス'CAF'と世論調査機関ギャラップ共同調査
2013年チャート 統計著 2013年韓国社会指標から取った資料で作りました

ご清聴
ありがとうございます



世界8大学合同国際学生フォーラム

ドイツ ボン大学

ベンダー・アナスタシア

Bender Anastasia

ボン大学

I learned a lot about international relations, how the EU deals with natural disasters and how natural disasters could be prevented. I also learned a lot about different cultures and how to mix effectively with people from different countries. For example, in Europe we don't often get the opportunity to mingle with people from East Asia, such as people from South Korea and China. It was also my first time meeting people from Thailand, so I really appreciate the opportunity.

By coming to Ochanomizu University I have learned about the daily life in a Japanese university and how discussions are conducted in Japan. During the evenings I also used my free time to explore Tokyo and the surrounding areas, for example I went Odaiba and Shinjuku, where I experienced a variety of Japanese cuisine including Sushi and Takoyaki.

We experienced a disaster prevention centre and presentations about natural disasters and how to overcome catastrophes. We also made presentation before coming to Japan about natural disasters and how the German government and German people cope and handle disasters. In turn we also listened to and learned about the procedures that other countries such as Czech.

Republic and Slovakia take during a natural disaster. Furthermore we heard the stories of people who experienced the earthquake and tsunami on 3.11 firsthand and from these stories we learned about sustainable volunteering projects and industrial activity in the disaster stricken areas that are contributing to the areas' recovery.

クリガー・イリナ

Kruger Irina

ボン大学

Coming to Ochanomizu University for this ten day project, I have learned a lot of not only the state of natural disasters in Japan but also in other countries such as Czech Republic and Poland [countries I previously thought might not have had disaster procedures given that disasters are few and far between]. I particularly enjoyed learning about how the disaster on 3.11 was dealt with, as well as the current procedures in place to prevent a similar disaster occurring on the same scale in the future. Hearing about the Sakura Line project was particularly satisfying. I also felt that I learnt a lot about international cooperation through actually mingling with people from lots of different cultures and countries – especially people from countries I wouldn't usually meet, such as from Thailand and South Korea

We learned about disaster prevention – both how to prevent a disaster before it happens and also how to prevent a disaster of the same magnitude from happening again in the future. We also learned about how natural disasters are dealt with in other countries and how countries cooperate and help each other in times of need e.g. how the E.U. donates money and necessities to countries in need. It was also interesting to learn about some very current topics in Japan that Ochanomizu students kindly presented to us on the first day, such as America's role in East Asia and how culture can contribute to international cooperation. The discussions that followed these presentations were very lively and interesting, and I really admired how everyone participated in them. Furthermore we heard stories from people who actually visited and studied the areas affected by the 3.11 earthquake and learned about what we can concretely do to help these areas.

2014年3月13日

第3回 世界8大学合同国際学生フォーラム

震災復興と国際連携：
「世界の災害、その時ドイツは何
ができますか？」

アナスタシア・ペンダー、イリナ・クリガー
ボン大学

目次

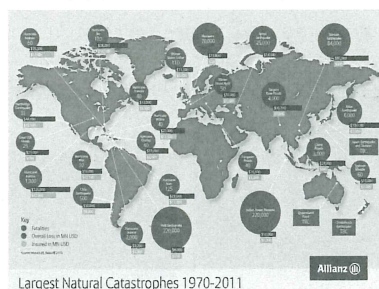
1. ドイツについて
2. 世界各地で起きた自然災害
3. ドイツで起きた自然災害
4. ドイツの国際援助機関
THW (German Federal Agency for Technical Relief)
Aktion Deutschland hilft (Campaign Germany Helps)
5. その他に何ができるか
6. 日本の福島原子力発電所の事故の際のドイツの援助
7. まとめ

1. ドイツについて



首都:ベルリン
人口(2013年現在):8058万人
首相:アンゲラ・メルケル
気候:降雨量が多い。
特に夏に多い。
平均気温:
1月 -0.5度
7月 16.7度

2. 1970年から2011年までに世界各地で起きた大規模な自然災害とその規模



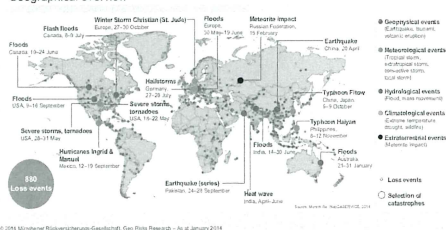
2. 世界大都市の自然災害リスク指数

図8 世界大都市の自然災害リスク指数



2. 2013年世界各地で起きた自然災害

NatCatSERVICE
 Loss events worldwide 2013
 Geographical overview

Mupich RE 

3. ドイツで起きた自然災害

大洪水 (2013年6月)

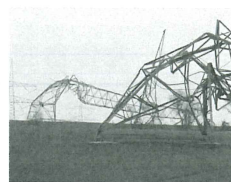


- ・ 損害額: 117 億ユーロ
- ・ 死者: 25 人

3. ドイツで起きた自然災害

激しい嵐 (2007年1月)

- ・ 損害額: 43 億ユーロ
- ・ 死者: 13 人



3. ドイツで起きた自然災害

降雹 (こうひょう) (2013年7月)



- ・ 損害額: 39 億ユーロ



4. 国際援助機関

THW (German Federal Agency for Technical Relief)

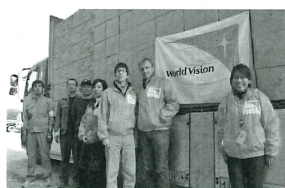
- ・ 1950年8月22日に災害救助のために誕生した
- ・ 国内でも国外でも活動している
- ・ ボランティアとして入ることが出来る



4. ドイツの国際援助機関

3. 2 Aktion Deutschland Hilft (Campaign Germany Helps)

- ・ ドイツの様々な援助機関が合併 (がつべい)
- ・ 外国の災害援助が主



- ・ 日本の東日本大震災の被災者を援助する隊員。Aktion Deutschland Hilftに参加している援助機関はaction medeor, ADRA, arche noVa, ASB, CARE, Habitat for Humanity, Help, Islamic Relief, Malteser International, World Visionなど。

4. ドイツの国際援助機関

3. 2 Aktion Deutschland Hilft (Campaign Germany Helps)

- ・ 一般人でも募金活動を行うことができる
- ・ 様々なイベント、例えば、2013年12月フィリピン台風の被災者のためにボンでチャリティ・コンサートを開催



5. その他の援助方法

- ・ 様々な援助団体を通してお金や洋服を寄付する
- ・ デモをする
- ・ 自然災害が起きた国に観光旅行をする
- ・ 自然災害が起きた国から商品を買う
- ・ 広報活動(ブログでバナーを使うこと、ソーシャル・メディアでシェアすること)

6. 日本の福島の原子力発電所の事故の際の援助



Aktion Deutschland hilftの義捐金
(2011): 1190万ユーロ



Aktion Deutschland hilft:壊れて
いたふじの園という養護施設の再築
(一関市、岩手県)、緊急宿泊所の
建築

6. 日本の福島の原子力発電所の事故の際の援助

・ 募金活動

- Deutsches Rotes Kreuz
ドイツ赤十字から義捐
金3000万ユーロが
日本に送られた。

・ 現場での援助

- THWの隊員40人が来
日し、救助した。



7. まとめ

- ・ 災害援助をしたい時は以下のことができます:
 - 情報を集める
 - 広報活動をする(ブログでバナーを使うこと、ソーシャル・メディアでシェアすること)
 - デモをする
 - 寄付する
 - 災害が起きた国に観光する
 - 国際援助機関などでボランティア活動をする

「ご清聴ありがとうございました」



世界8大学合同国際学生フォーラム

ポーランド ワルシャワ大学

シュミギェルスカ マグダレーナ・カタジナ
Smigielska Magdaiena Latarzyna
ワルシャワ大学

このフォーラムと日本での滞在のおかげで、私は知識を広めました。それは自然災害についてだけではなく、自然災害が起こる時どんな反応をするかや8カ国の学生の考え方と色々な援助方法について習いました。そして、それは確かなことですが、日本語能力があがりました。毎日日本語を話して、だんだん話せるようになったと思います。

私が今回参加したフォーラムのおかげで、日本に来る機会がありました。毎日新しい経験ができて、私の人生は豊かになりました。日本人はみな留学生に対してとても優しく、いつも世話をしてくれました。そのうえ、困ったら、いつも助けてくれました。私がものすごく感動したのは、日比谷公園イベントの黙祷でした。私はポーランド人なのに、日本人と一緒に祈りして、泣いて、心が繋がったということを感じました。

フォーラムはものすごく面白くて、全部の講演とイベントはとても興味深かったです。色々な意見や発表を聞いて、本当に勉強になりました。防災体験は以前したことがありませんからとても面白くて、役に立ちました。それに、農林水産省で聞いた話は私に新しい考えを与えてくれました。

私はまだ将来の仕事を決めています。だが、分かっているのは、私は母親になりたいということです。だから、このフォーラムで得た知識と経験のおかげで、私はより良い人になれるでしょう。そして、将来賢母になる夢があります。その得た知識を自分の子供に伝えたいと思います。世界の未来は子供達のものだからです。

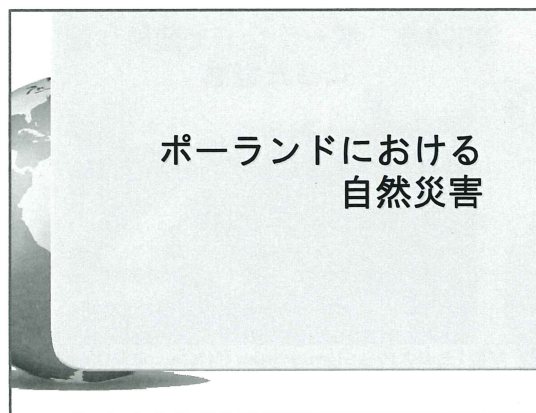
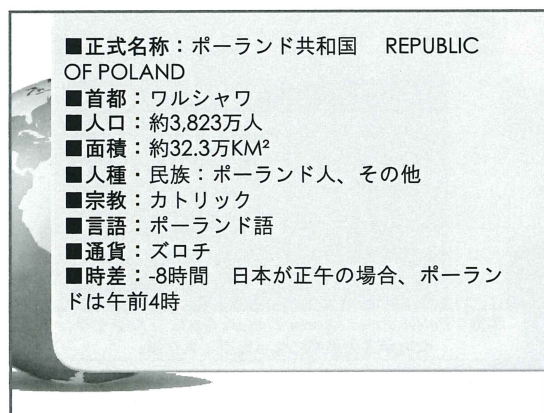
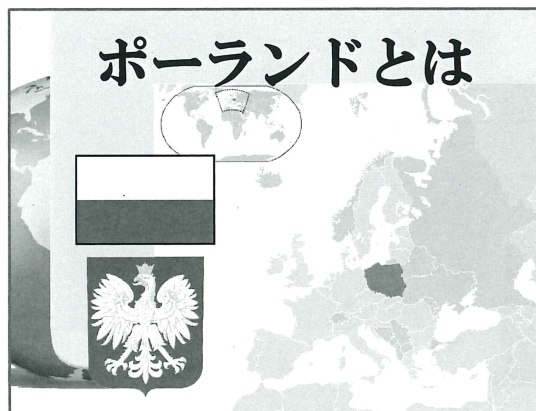
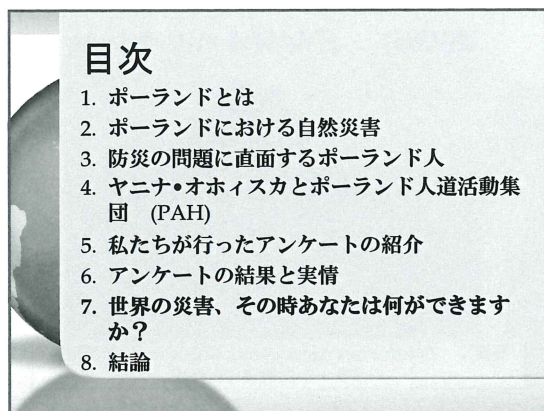
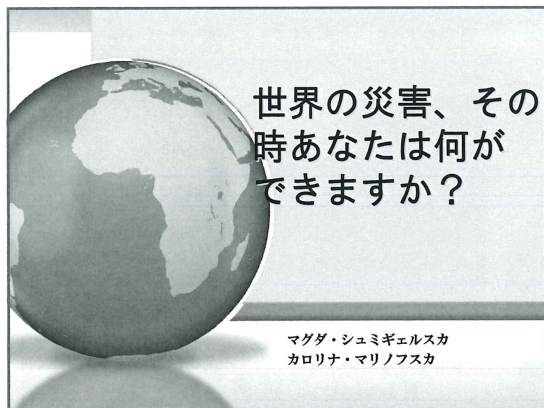
今までこのような日本語を使うフォーラムに参加したことがなかったため、意見と感想はたくさんありましたが、間違いを恐れて、発言があまりできませんでした。しかし、この経験はこれからの学習の動機になりました。私の意見を日本語でしっかり伝えられるように頑張ります。今回のフォーラムでできた友達と連絡を取り続けることで練習する機会が増えると思います。

マリノフスカ カロリナ・アンナ
Malinowska Larolina Anna
ワルシャワ大学

By coming to Japan and participating in International Students` Forum I could learn about natural disasters occurring in other countries by listening to first-hand experience of other participants. Also, by mutually teaching one another we could learn about prevention and counter-measures of natural disasters in each country. and thus be able to use this knowledge in the future.

During the Forum, I learned many things about other countries, which are never provided in the text books. By this, I could compare my knowledge with the reality and found many facts worth of further exploration. Also, thanks to my visit to Japan, I could improve my knowledge about contemporary Japan and make a comparison to the information I found in my specialistic literature. By being able to compare the data I have gathered during my stay in Japan. I will be able to write a master`s thesis which will be most up-to-date. Had I not come to the Forum, I would never be able to gather all the information I am planning to use in the thesis. Also, thanks to the visit, I will be able to further improve the parts already written.





**1992年 クディニャ・ラチボルス
カー帯の山林大火災**



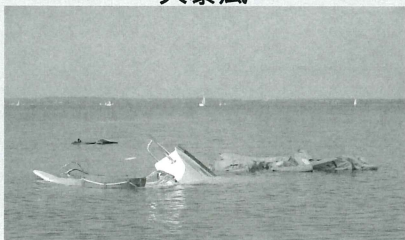
写真：Polish Press Agency. 燃えていた消防車

1997年 千年に一度の大洪水



写真：Polish Press Agency. Nysa
Kłodzkaの破壊された橋

**2007年 マズーリ地方を襲った
大暴風**



写真：Polish Press Agency/Paweł Pasternak.
Niegocin湖の救出作戦

2008年 EMMAハリケーン



写真：Polish Press Agency/Jacek Bednarczyk. EMMA
ハリケーンに倒壊された家

**2008年 ポーランドで随所に起
こった竜巻**



写真：Polish Press Agency/Adam HalaŹewej. 竜巻の被害を
取り除く。

2010年 中央ヨーロッパの大洪水



写真：Polish Press Agency/Tomasz Gzell. ワルシャワ。
水位が過去最高になったヴィスワ川。

ポーランドにおける異常気象

- 霜の冷害
- 干ばつ
- なだれ
- 地すべり

防災の問題に直面するポーランド人

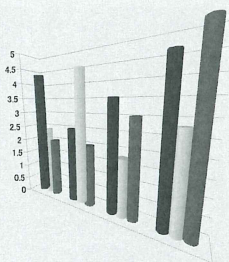
- 問題1 避難しない
- 問題2 最後まで危険な地域に残る
- 問題3 役割分担がされていない
- 問題4 予防がない

ヤニナ・オホイスカと ポーランド人道活動集団

Janina Ochojska & Polish Humanitarian Action (PAH)



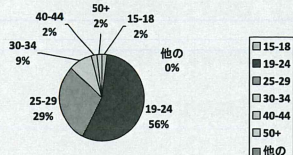
私たちが 行った アンケート



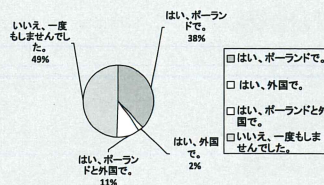
アンケートの目的

- 目的：若いポーランド人の自然災害に関する意識を調べる
- 回答者：15才から50才以上の男女、主に大学生たち

年と学歴



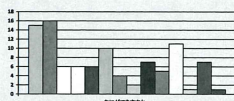
あなたはかつてボランティアの活躍をしたことがありますか？



- 「ポーランド人が自然災害の損害を処理することについて知識がある」と思いませんか。
 - はい、ポーランド人は知識がよくあります。2%
 - はい、ポーランド人は知識があります。13%
 - いいえ、ポーランド人は知識がありません。73%
 - いいえ、ポーランド人は全然知っていません。11%
- 「ポーランド人は早く自然災害の損害を処理することができる」と思いませんか。
 - はい。25%
 - いいえ。75%
- 「学校などで自然災害の損害の防止に関する授業は社会全体の意識を変える」と思いませんか。
 - はい。80%
 - いいえ。20%

- 「授業時間の一部はボランティアの活動に費やされるべきだ」と思いませんか。
 - はい。67%
 - いいえ。33%
- あなたは世界で自然災害が起こった場合に何かができると思いますか。
 - はい。89%
 - いいえ。11%
- 危険な時にどうすればいいかを知っていますか。
 - はい。40%
 - いいえ。60%
- 応急手当をすることができますか。
 - はい。64%
 - いいえ。36%

世界で自然災害が起こった場合に何ができますか。
選んでください。



援助とはできるだけ早く
事故以前の自立生活を回
復するのを手伝うこと

それを実現するため、被害
者にもっとも必要なものだ
けを提供するべきです。

実際に提供する援助より
援助活動そのもののほうが
より大切です。

世界で自然災害が起こ
るとき、あなたは何が
できますか。

意識を深める

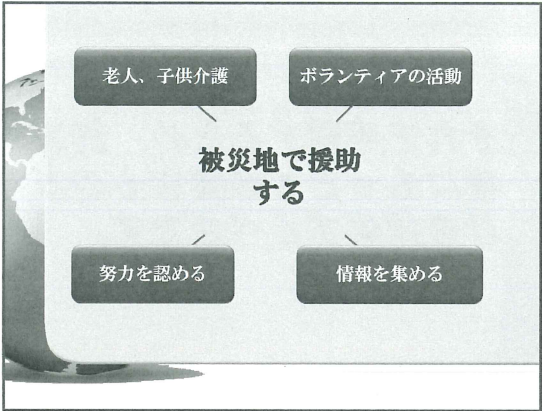
イベントを行う

自国に
いながら

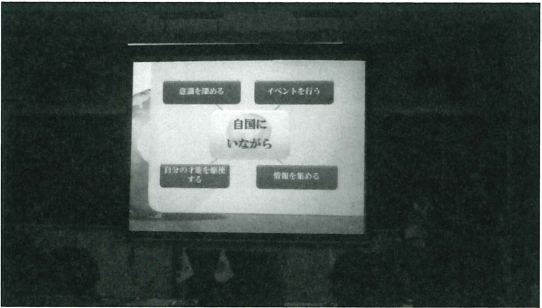
自分の才能を駆使
する

情報を集める

義援金



未来の世界の担い手：
子供



世界8大学合同国際学生フォーラム

アメリカ
ヴァッサー大学

イチザワ・マリア

Ichizawa Maria

ヴァッサー大学

I learned a lot about disaster relief, and one of the things I learned was the importance of collecting information about the situation and needs of the affected area. This should be done not only through media and national news, but also through social media such as facebook, and most importantly through individual contacts. We learned how nuclear particles are still higher than normal, but slowly being diffused, and becoming less concentrated, making food more safe to eat, as well as measures taken by the government to promote food from the affected area. I learned a lot not only about Japan, but about other countries such as Poland and Korea, including differences in education, attitudes, and culture. My Japanese also improved a lot, including more advanced vocabulary and more kanji that I was lacking.

I had a wonderful experience in Japan, thanks to the wonderful hosts of Ochanomizu University, as well as the other international students. I was introduced to various aspects of Japanese culture, such as interesting foods not often eaten in America, and had a very fun time exploring Japan with both Japanese and foreign students. Sometimes it was difficult to navigate the complicated social scene, especially as I had limited internet and phone access. But over all everyone was very friendly, and always willing to help!

Orientation, campus tour, poster session, panel discussion, lectures, Great East Japan Earthquake memorial event, video conference with Japanese students at Monash University, student presentations, workshop symposium, documentary viewing, sightseeing tour of Tokyo.

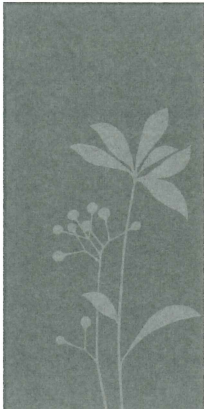
チェン・イン

Chen Yin

ヴァッサー大学

Specifically regarding the presentations by the overseas students: Due to everyone coming from different countries, bringing with them different experiences and perspectives, there were a great many things in the presentations that had never even crossed my mind before. From the most basic of information such as each country's experience with natural disaster, to more complicated issues regarding the difficulties foreigners face when a disaster strikes Japan, so much was new, relevant and (to tell the truth, unexpectedly) interesting. I am now equipped with the knowledge of how 8 different countries prepare for and deal with natural disasters, as well as a deeper understanding of the trials Japan faced when the Great East Japan Earthquake hit. Aside from that, this week of speaking nothing but Japanese has done wonders for my grasp of the language - simple, everyday phrases that somehow slipped through my learning are now deeply imprinted on my mind, and my general vocabulary has also expanded with the sheer number of presentations I listened to and thought about.

I've always kept working in Japan in consideration, and this trip only served to further persuade me to make this choice. I plan to study here for a year from autumn next year, so I will probably only decide then, but this trip definitely left me with a great impression of Tokyo. In terms of the actual theme of the forum, I'm definitely more interested in disaster relief efforts and international cooperation on a personal level, but I will probably still go with my choice of an English and Japanese double major.



災害の中でも
希望の兆しを
長期的な国際交流

市澤マリア
セレン・チェン

東日本大震災の後、ヴァッサーの活動

JAPAN RELIEF
DINNER



UPC FRIDAY, APRIL 15TH 5-7PM




東日本大震災の後、ヴァッサーの活動



BENEFIT CONCERT
FEATURING
THE VASSAR DEVILS
THE NIGHT OWLS
JAPAN RELIEF TRIO

東日本大震災の後、ヴァッサーの活動



東日本大震災の後、ヴァッサーの活動

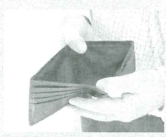




東日本大震災を
復興に役立てていくために。

しかし、問題は...

- 短期的
- 財源が少ない
- どこを中心すればいい?
- 具体的な役に立てない
- 上から目線だと思われるかもしれない



⊖

...学生として何が出来るのか?

長期的で交流を中心にした活動

1. ヴァッサーハイチプロジェクト
2. あしなが団体との共同プロジェクト
3. 私たちのアイデア

ヴァッサーハイチプロジェクト

- ・大学の非営利組織
- ・Chermaitreと言うハイチの村の支援
- ・学生達の教育や栄養を中心にする



ヴァッサーハイチプロジェクト

- ・大学の非営利組織
- ・Chermaitreと言うハイチの村の支援
- ・学生達の教育や栄養を中心にする



ヴァッサーハイチプロジェクト

- ・大学の非営利組織
- ・Chermaitreと言うハイチの村の支援
- ・学生達の教育や栄養を中心にする



あしなが団体との共同プロジェクト



あしなが育英会



- ・ヴァッサーとあしながとの連携
- ・日本とウガンダの孤児への支援

あしなが団体との共同プロジェクト



- ・3月の特別共同公演
- ・ヴァッサーコーラス部
- ・ウガンダの孤児が伝統な踊り
- ・日本人の孤児が太鼓を
- ・いろいろな国の文化が集まる
- ・数年続ける予定



私たちのアイディア：国際手紙交流

- 小さい町も考えるべき
- 被災地の学生と海外の学生とのパーソナルな関係を作る
- お金ではなく、国際交流を中心に
- 何処の国でも出来る



私たちのアイディア：国際手紙交流

- ペンパルシステムを実行するため：
 1. 被災地の学校と連絡を取る
 2. 学校で興味のある人を集める
 3. 月に一回手紙のやり取りを
- サークルみたいな団体を作る → 長期的な励まし
- 他の国の文化への興味を広げる方法

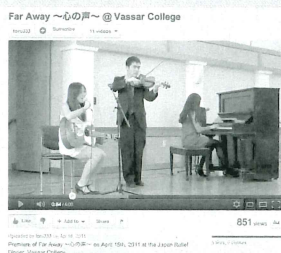


不運な状況の中から、良い面を探すべきです！

テイラー・アンデルソンのお話



Far Away ~心の声~



不運の状況の中でも、
希望の兆しを

ありがとうございました！

世界8大学合同国際学生フォーラム

日本
お茶の水女子大学

Problems for Foreigners in Japan

Tamami Katayama
Ochanomizu University

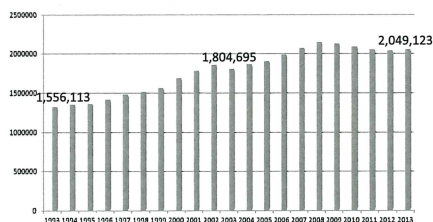
Outline

1. Aim
-To consider what we can do to overcome natural disasters in a multicultural society
2. Question
-What problems did foreigners have when the earthquake happened on 3/11?
3. Problems
 - Case 1 : Life at an evacuation site
 - Case 2 : System
 - Case 3 : Media
4. Summary
5. Conclusion

“Vulnerable people in disaster”

- Definition
-Those who need special help when a disaster happens
- Disabled people
- Sick people
- Pregnant women
- Foreigners

Change in the number of foreigners living in Japan



出典者 <http://www.moj.go.jp/content/000108378.pdf>

The number of foreign people living in disaster stricken areas

(Aomori, Iwate, Miyagi, Fukushima, Ibaraki)

2011/3/15

Nation	Number	Nation	Number
China	32,289	Peru	2,120
Korea	14,007	USA	1,927
Philippines	12,574	Vietnam	1,447
Brazil	8,985	India	837
Thailand	5,242	Others	9,468
Indonesia	2,251	total	75,348

法務省 <http://www.is.nanzan-u.ac.jp/IRIRKAN/kanbo/pdf/bulletin12/02-02.pdf>

What problems did foreigners have after 3/11?

Case1: Life at an evacuation site

(from Sudo Nobuko at Disaster multi language support center in Sendai)

- Different customs
- Mental stress

Case2: System

- Regulations

Case3: Media

- Sensationalist media

Case1: Life at an evacuation site

Cultural problems

- Food... Vegetarian, Taboo food
- Clothes... Burkas for Muslim women
- No place for worship

Other problems

- Lost passport

Case1: Life at an evacuation site

Mental stress

- Limited information
- Feelings of alienation
- Lack of experience and knowledge about earthquakes or tsunamis

↓

A great deal of fear

- High possibility of having PTSD for adults
(PTSD...Post-Traumatic Stress Disorder)

Foreigners : about 40%

Japanese : about 15%

(Moritani Yuici, Tohoku university 2011)

Case1: Life at an evacuation site

Some foreigners chose to live outside evacuation sites because...

- they could not get used to life at evacuation sites
- they were afraid of being deported
(illegal residents)

But...

evacuation sites are much safer than their own houses or camping-out

Case1: What can we do?

Different cultures

- Share these problems and recognize different needs
- Think about a better environment for both Japanese and foreigners

Mental stress

- Use as many languages as possible
- Do emergency training exercises
- Give counseling

Case2: Social system

- Visa status for foreign residents
- Strict requirements for residential permission
 - For childless couples with only one Japanese spouse, should the Japanese spouse pass away, the foreign spouse's visa becomes invalid
- Difficulties receiving donations and finding new jobs
 - Span of stay
 - Stateless people

Case 3 : Sensationalist media

- Unnoticed separation
 - "Now we Japanese should be united!"
- Coined words
 - "Fly-jin(人)" and "Stay-jin(人)"
 - Fly-jin... those who flew away from Japan(40%)
 - Stay-jin... those who stayed in Japan (60%)

Case2: What can we do?

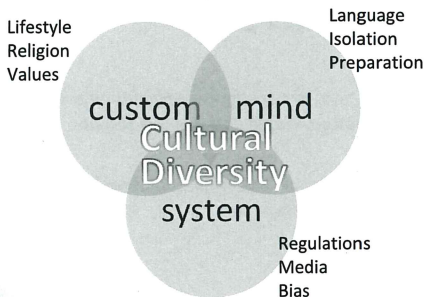
Case 1 :

- Revise current systems, especially the regulation of international marriage

Case 2 :

- Develop media literacy

Summary : Barriers



Conclusion

- We should do our best to be sympathetic and understanding as fellow victims (and not as "Japanese" or "Foreigner")
- On a daily basis (not just in times of need)
- Learn a language
- Learn about another culture
- Encourage community participation

Reference

http://www.socconso.com/symposium/sympo2012_suzuki.pdf
<http://www.chikyukotobamura.org/forum/sympo120225report13-16happyo2.pdf>
http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjio/h24_kentoukai/3/pdf/10.pdf
http://www.clair.or.jp/tabunka/shinsai/pdfdata/sendai_report.pdf
http://www.law.tohoku.ac.jp/gcoe/wp-content/uploads/2013/02/gemc_10_cate2_7.pdf
http://iwata-kyosei.com/z11_haiguusya.html#h1
<https://www.nhk.or.jp/bunken/research/title/year/2013/pdf/005-02.pdf>

Problems from a linguistic point of view

What can a foreigner living in a country stricken with disaster do

Johana Dvorakova

Problems

- Incorrect and/or insufficient information abroad
- Language barrier
 - Difficulty of Japanese used in announcements
 - Language barrier on the site of disaster

Incorrect and/or insufficient information abroad

- News in other countries have limited space to inform people about disasters -> only the worst is shown
- How well informed people are affects whether they decide to donate and help or not

Ways to help

- Correct and detailed information is important
- Informing as many people as possible about the real situation (in your mother language or in any language you speak) -> using social networks
- Anyone who lives in the country of disaster can do it

Problem of difficulty of Japanese used in announcements

- Honorific Japanese used every time -> difficult for foreigners to hear and understand
- Not enough announcements in English

Ways to help

- Make the Japanese announcements easier
- Make more announcements in English

Problem of a language barrier on the site of disaster

- Foreigners/tourists may not understand Japanese
- Problems with the organization of shelter
- Problems with medical care

Ways to help

- Volunteering as a translator
 - The average translator does not need to know any specialist terminology
 - Medical translation is more difficult, but you do not need to have studied medicine to do it

- Many organisations were looking for translators after the 3/11 earthquake, such as:
<https://www.facebook.com/pages/Japan-Guide-Consortium-Volunteer-Interpreters-Earthquake-Relief/149712655091836>

